

常盤北小 コミュニティ・スクールだより

第2号 令和4年12月21日 さいたま市立常盤北小学校

～第2回コミュニティ・スクールを開催しました～

令和4年11月22日(火)、本年度2回目となる学校運営協議会を本校メディアルームにて開催いたしました。今回の協議会では、学校側より、4月からの児童の様子(スライドショー)、チャレンジスクール、学力等児童の現状、学校評価中間集計結果等を報告し、熟議では、「コミュニケーション力の育成『あいさつのできる子』のとりくみ」をテーマに協議をおこないました。また、委員の皆さんから、教育委員会への申出事項についてご意見をいただきました。

<学校運営協議会の役割と委員の義務>

会議を始めるにあたり本校校長より、学校運営協議会の役割と委員の義務について、①協議会は学校運営全般について教育委員会または校長に対して意見を述べるができる。②協議会は毎年度、学校の運営状況等について評価を行う。③委員は職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。ことが説明されました。

<第2回学校運営協議会熟議の内容>

前回、5月18日の3校合同協議会では、学校・家庭・地域が一体となって「コミュニケーション力」を身に付けた人材を育成するという目標の第一歩として、「あいさつができる子」の取り組みを行っていくことを確認しました。今回は、その後の取り組みを踏まえて、課題と今後の取り組みについて熟議を行いました。

最初に学校側からこの間の取り組みとして、コミュニティ・スクールだよりの発行、学校評価での項目の設定、計画・生活委員会によるあいさつ運動、常盤中学校とのコラボレーション企画、教職員のあいさつの徹底等について報告し、①来校者へのあいさつが十分出来ていない。②あいさつをしても返してくれない。③教職員が率先してあいさつすべき。等の課題が示されました。また、あいさつ運動をすすめた計画・生活委員の児童からは、返事がないと「心が折れそう」との声も出ており、学校として、少なくともあいさつされたら無視はしない、そして相手に聞こえる声で返すことを最低限守っていくことを進めていくことが報告されました。

委員の皆さんからは、次のようなご意見をいただきました。

- 対面で相手を見てあいさつすることは大切。自分から率先してあいさつしていくことが大事と思い、家庭でも子どもたちに伝えている。
- 朝の登校指導でも、返事が返ってこない、声をかけても全く無視する子もいる。毎朝「心が折れる」状況。まず、低学年の時にしっかりとあいさつする習慣を身につけていくことが大切と思う。
- 子どもたちは楽しいことは自発的にやる。楽しいあいさつ運動の方法を工夫してみることも必要。
- あいさつを強制するのではなく、子どもたちが何のために挨拶しているかを理解することが大切。あいさつは心と心のコミュニケーションにとって大事なことということを知ってほしい。



- ・小学生の素直なうちに「なぜあいさつをするのか」ということを教えて、それを大人になるまで継続していくことが大切。あいさつも出来ない大人になったら大変なことになる。
- ・家でもあいさつしない時期があった。あいさつは人に対するありがたの気持ちにつながりお互いが気持ち良いことを話し合い、今ではちゃんとあいさつできるようになった。上級生から、あいさつ出来ることはカッコいいという意識に変わっていくと良いと思う。
- ・子どもたちはあいさつした方がよいことは理解している、それをどう言葉として出していけるかということだと思う。あいさつは、その子の身体や心の状態をみるバロメーターにもなっている。
- ・例えば親子でエレベーターに乗るときに、「どうぞ」とか「失礼します」等、親が自然にあいさつする姿を見て子どもたちは学んでいく。地域でそんな取り組みをすすめていくことも大切と思う。また、子どもがあいさつをできたときに、「よく出来たね」と褒めてあげることも大事なことです。

※熟議での議論を踏まえ、今後、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいくことを確認しました。

<教育委員会への申出事項>

教育委員会への申出事項として、児童の安全対策の観点から以下のご意見をいただきました。

<意見>昇降口に鍵はかけられないか。

<意見>門は施錠出来ないか。以前いた学校では登校時刻が過ぎたら施錠して入れなくなっていた。

<意見>学校の門の警備強化はできないか。警備員も半日ではなく全日勤務に戻してほしい。例えば門にインターホンをつけて遠隔で開錠できるオートロックに出来ないか。塾などでは、ICタグで出入りがわかるようなシステムを導入しているところもある。

<回答>昇降口の施錠は現実的ではない。専任の職員が配置されなければ難しい。安全対策上の予算措置については要望できると思う。

<回答>名札をかけていない保護者が増えている。来校時には必ず名札を着用し、インターホンで職員室に連絡していただくことになっているが直接入ってしまう方がいる。不審者対策からも協力していただきたい。

<意見>保護者の名札をつけることや、インターホンを押すことを知らない保護者も多いと思う。

<回答>再度アナウンスしていきたい。本日出されたご意見については、教育委員会に申し出させていただく。

次回の第3回学校運営協議会は、2月27日(月)に、常盤小学校で3校合同で開催します。

コミュニティ・スクール推進、横断幕フレーズが決まりました。

さいたま市では、学校・家庭・地域が一体となってコミュニティ・スクールを力強く推進していくことを目的に、全校に掲げる横断幕のフレーズを公募していました。

さいたま市コミュニティ・スクール推進協議会での審査の結果、フレーズは「子どもの未来、地域の未来をつくる『さいたま市コミュニティ・スクール』」に決定しました。横断幕は、本校校庭の歩道側フェンスに掲示しています。



学校運営協議会会長あいさつ

常盤北小学校学校運営協議会 会長 志水 正

この度、常盤北小学校学校運営協議会会長を拝命頂きました志水 正です。地域と関り72年、常盤北小学校との縁は開校以来33年間になるかと思えます。石崎校長先生をはじめ、教職員先生方の子どもたちへの人間愛を強く感じる常盤北小学校だと思えます。皆様の御蔭と感謝しています。

児童数が少なく勢いが感じられませんが、だからこそ協議会委員の方々と地域の皆様と寄り添って協力しながら応援してまいります。常盤北小学校ひまわりっ子たちの成長を心より願っています。